Si(100)-2×1清浄表面に作製したハフニウム超薄膜の酸素吸着と脱離

¹愛媛大学理・化,²日本原子力研究開発機構,³名大シンクロトロン光研究センター 〇垣内拓大¹,山崎英輝¹,塚田千恵^{2,3},吉越章隆³

Oxygen adsorption and desorption of ultrathin Hafnium film on clean Si(100)-2×1 surface

OTakuhiro Kakiuchi¹, Hideki Yamasaki¹, Chie Tsukada^{2, 3}, Akitaka Yoshigoe³
¹ Department of Chemistry, Faculty of Science, Ehime University, Japan
² Japan Atomic Energy Agency, Japan
³ Synchrotron Radiation Research Center, Nagoya University, Japan

[Abstract] To understand the oxidation dynamics at surface and interface of ultrathin hafnium film composed on Si(100)-2×1 [Hf/Si(100)] is one of the most significant issues for sustainable development of Si semiconductor devices. Therefore, we investigated the oxygen-adsorption to Hf/Si(100) and the oxygen-desorption from HfO₂/SiO₂/Si(100) by means of the Si $2p_{1/2}$, $_{3/2}$, Hf $4f_{5/2}$, $_{7/2}$, and O 1s photoelectron spectroscopy combined with synchrotron radiation soft X-ray. Hf and Si are easily oxidized up to be HfO₂ and SiO₂ by exposure to O₂ molecules of 1.4×10^1 Langmuir because metallic Hf at interface works like oxidation enhanced catalysis. The oxygen desorption from HfO₂ and SiO₂ is occurred after annealing around 1073 K. And, HfO₂ on Si(100) substrate turns into Hf disilicide islands with bared Si(100) substrate [*i*-HfSi₂/Si(100)]. After exposure the *i*-HfSi₂/Si(100) to O₂ molecules of the same amount above, the bared Si(100) substrate hardly reacts with O₂ molecules because *i*-HfSi₂ doesn't act as catalysis. Our study indicates that the Hf chemical states have a major influence on Si oxidation dynamics.

【序】 Metal-Oxide-Semiconductor Field Effect Transistor(MOS-FET)の開発では省エ ネ化および処理速度の向上を実現するために SiO₂ ゲート絶縁膜の薄膜化が進んだ結 果、SiO₂ 膜を介して起こるリーク電流が問題となっている。そこで、SiO₂の代わりと して高い誘電率を持つ二酸化ハフニウム(HfO₂)が注目され、近年は、HfO₂の薄膜 化に向け超薄膜状態での構造や化学組成制御に注目が集まっている [1]。そこで、本 研究では、Si(100)-2×1 清浄表面上にハフニウム(Hf)超薄膜およびハフニウムジシリ サイド(HfSi₂)を作製し、Hf 種の化学状態によって異なる Hf および Si(100)基板の 酸化過程と加熱による酸素脱離過程を放射光(SR)軟 X 線を励起源とした X 線光電 子分光法にて解明した。

【実験方法】 全ての実験は、大型放射光施設 SPring-8 の BL23SU に設置された表面 化学反応追跡ステーション SUREAC 2000 にて行った [2]。超高真空(UHV) 槽内の 到達圧力は 7×10⁻⁹ Pa であった。Si(100)-2×1 清浄表面は、15×15 mm²に切り出した Si ウエハーを化学洗浄し、超高真空内で輻射加熱法によって 1370 K のフラッシング 後、ゆっくりと室温付近まで下げることによって作製した。この表面に Hf 超薄膜 [Hf/Si(100), the Hf purity of 99.9%, including Zr 3%] を電子線加熱法によって 1.5×10⁻⁸ Pa 以下の UHV 槽内にて作製した。また、Hf/Si(100)を 1073 K で加熱することで Si(100) 基板上で島形成した HfSi₂ [*i*-HfSi₂/Si(100)] を作製した。 Hf/Si(100) および



Fig. 1. (left) Si $2p_{1/2, 3/2}$, (center) Hf $4f_{5/2, 7/2}$, and (right) O 1*s* photoelectron spectra obtained from sample surface after exposure a Hf/Si(100) to respective O₂ molecules of (a) 0.0 L (Langmuir, 1 L = 1.3×10^{-4} Pa·sec), (b) 7.5×10^{-4} L, (c) 8.3×10^{-3} L, (d) 1.2×10^{-2} L, (e) 1.4×10^{-2} L, (f) 2.0×10^{-2} L, (g) 9.0×10^{-1} L, (h) 4.1 L, and (i) 1.4×10^{1} L. Each intensity ratio of O 1s photoelectron signal peak to background (S/B) was shown in each O 1*s* photoelectron spectrum region. The most intense peak positions of initial Si $2p_{1/2, 3/2}$ and O 1*s* photoelectron spectra are indicated by dashed vertical lines in red and blue, respectively.

i-HfSi₂/Si(100)は超高純度の酸素分子(O₂、99.99995%)に曝露した。これらの試料に は、*hv*=690 eV の SR 軟 X 線を照射し、表面法線方向(バルク敏感)およびそこから 70°(表面敏感)の取り込み角で Si 2*p*_{1/2,3/2}、Hf 4*f*_{5/2,7/2}、および O 1s 光電子スペクトル を測定した。SR 軟 X 線のエネルギーは、金清浄表面の 4*f*_{7/2} の結合エネルギー(84.0 eV) によって補正した。

【結果・考察】 Fig. 1 は、Hf/Si(100)に O₂分子を 0.0 Langmuir (L)から 1.4 × 10¹ L 曝 露した後に得られた表面敏感な Si 2p1/2,3/2、Hf 4f5/2,7/2、および O 1s 光電子スペクトル である。O2分子を7.5×10⁻⁴L曝露することによって、蒸着直後の金属 Hfの酸化がす ぐさま進行することが分かった。一方、Si(100)基板は、O2分子を8.3×10³L以上曝 露した後に酸化が開始し、シリコンサブオキサイド(Siⁿ⁺, n = 1, 2, and 3) 成分の生成 が確認できた。これに合わせて O1s 光電子ピークも高 BE 側へ僅かに 0.7 eV シフトし た。さらに O_2 分子を 1.4 × 10¹ L まで曝露すると HfO₂ と SiO₂ まで酸化が進行した。 特に Si(100) 基板は、2×1 清浄表面の場合と比較して金属 Hf 超薄膜が存在することに よって容易に SiO₂ 状態まで到達した。また、Fig. 1 と同試料から得られたバルク敏感 な光電子スペクトルと比較すると、HfO2は極表面近傍に分布し界面近傍にはHf サブ オキサイド成分と酸化シリコン成分 (Siⁿ⁺, n = 1, 2, 3, and 4) が存在していることが分 かった。一方、金属 Hf 成分がハフニウムジシリサイド(HfSi2) 成分となった場合、 Si(100)基板の酸化は極めて抑制された。以上の結果は、O2分子曝露によって金属 Hf 成分が容易に酸化し、その後、酸素原子(O)のバルク拡散を経て Si(100) 基板が SiO2 まで酸化することを示唆している。この時、界面に局在する Hf 成分は Si 酸化の触媒 的役割を果たしていると考えられる [3]。当日は、1073 K 付近で起こる HfO2 および SiO₂からの酸素脱離についても報告する。

【参考文献】

[1] A. I. Kington *et al.*, *Nature* **406**, 1032 (2000), [2] Y. Teraoka and A. Yoshigoe, *Appl. Surf. Sci.* **169-170**, 738 (2001), [3] S. Ohno *et al.*, *J. Phys.: Condens. Matter* **23**, 305001 (2011).